

2021年08月10日(火)【外為Lab】松田哲  
タイトル:【目先の外国為替相場は、「ドル高傾向」】

東京オリンピックが終了した。

新型コロナウイルスの感染拡大が続くもとの東京オリンピック開催に関しては、個人的には、反対である(反対であった)が、とりあえず、実施されて、終了した、といった感がある。

オリンピックのような大きなイベントが実施されていると、どうしても、金融市場(株式市場や外為市場など)の市場参加者は、そちらに気が行ってしまい、マーケット(市場)への関心が薄れる傾向がある。

今回の東京オリンピックの開催時期が、「夏休み相場」と重なったために、その傾向は、より強くなった、と考えます。

東京オリンピックが終了しても、本日(8月10日)は、日本の「お盆休み」の最中であり、「夏休み相場」で、市場参加者が、極端に少ない状態のままです。

積極的に、相場に参入する必要は、まだ無い、と考えます。

+++++

ただし、目先の外国為替相場が、「ドル高傾向」を示していることに注目しています。

+++++  
+++++

先月(7月27日、28日)のFOMCでは、政策金利の据え置きを決定した。

その際に、パウエル議長は、テーパリング(量的緩和の縮小)を開始する時期について、何も決定していない旨を述べた。

この発表を受けて、先月(7月28日)のFOMC直後のマーケット(外国為替市場)は、「ドル売り」に反応した。

+++++

しかし、時間が経過すると、徐々に値を戻している。

つまり、マーケット（外国為替市場）は、再び、「ドル買い」に向かっている。

パウエル議長の発言は、その時点（＝7月）のことであり、これからの情勢次第では、テーパリング（量的緩和の縮小）を検討する可能性がある、と、マーケット（外国為替市場）が、先読みしているのだろう、と考えます。

++++  
++++

今年のジャクソンホールでのシンポジウムは、8月26～28日に開催される予定になっている。

※ジャクソンホールでのシンポジウムは、毎年8月の下旬に開催される。

※各国の中銀総裁などによる講演が行われる。

パウエル議長は、ジャクソンホールでの講演では、特段の内容を話さない旨、述べているが、それでも、何かしらの示唆があるのではないかと注目しています。

++++  
++++

（2021年08月10日東京時間15：00記述）